

〈解答〉

- ① 1 八  
2 イ  
3 エ  
4 〔例〕知識として私たちのなかに入っている記憶。(20字)  
5 ア

配点 各2点 10点満点

〈解説〉

- ①
- 1 「衆」という漢字は、上部の「血」を書いた後、下部の真ん中にある「イ」の部分を書く。つまり、六画で上部の「血」を書いた後、二画の「イ」の縦棒を書くのであるから、八画目ということになる。
  - 2 波線⑥とイの「柱」は、「物事全体の中心となるもの」という意味で使われている。ア・ウ・エの「柱」は、「建物の土台の上に直立し、何かを支えるためのもの」「直立したものの」という意味で使われている。
  - 3 1～3段落では、「歴史とはどのようなものか」「歴史と人間との関係」についての内容を説明し、4段落では、「記憶と知識との関係」という内容が述べられている。つまり、話題の転換が行われているので、転換の接続詞である、エの「ところで」が①に入るとわかる。
  - 4 波線②の直前の文が、「だから」という接続詞で始まっていることから、「だから」の前にある内容を原因として、「だから」以降の結果がもたらされたことがわかる。つまり、「一部の記憶が、知識として私たちのなかに入っていること」を原因として、「古代のことや江戸時代のことを私たちは知識として知っている」という結果がもたらされたということである。そのことをふまえて、波線②「それ」が指す内容を考えると、「私たちが知識として古代のことや江戸時代のことを知っているのは、一部の記憶が、知識として私たちのなかに入っているからであるが、『それ』だけではない」というつながりになっていることがわかるので、波線②「それ」が、「一部の記憶が、知識として私たちのなかに入っていること」という部分を指すと判断できる。この「一部の記憶が、知識として私たちのなかに入っていること」の部分を、指示語「それ」に当てはまるようにまとめる。
  - 5 波線③の中にある「私たちの判断に影響を与える」の部分が、2段落の「さまざまな記憶を多層的にもちながら、その記憶に照らして価値判断をし、自分の歩む道を決める」の部分を受けて述べられているということに注目する。つまり、「(記憶が)判断に影響を与える」というのは、「記憶によって価値判断が行われるようになり、自分の進む方向を決定づける要因となる」という意味になるのである。